

はじめに

伊藤忠記念財団は、2010年、障害のある子どもたちへの読書支援を目的として、電子図書普及事業を開始しました。児童書をマルチメディアDAISY図書にし、全国の学校や図書館に配布しています。今年は新たに57作品が仲間入りし、全861作品となりました。

マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」は、読者のニーズに合わせて、文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色などを選ぶことができます。また、読み上げているフレーズの色が変わるので、読んでいる箇所が一目でわかるようになっています。

紙の本での読書が難しい子どもたちには「字が小さい」「漢字が難しい」「どこを読んでいるかわからない」「本を持つことができない」「ページをめくれない」など、さまざまなバリアがあるため、一人ひとり支援の方法は異なります。本冊子には「わいわい文庫」を活用し、子どもたちが自分に合った方法で読書を楽しむことができるよう、細やかな観察と支援を行っている様子が報告されています。「これなら読める!」「最後まで読めた!」という経験が、子どもたちの自信や喜びにつながるのではないのでしょうか。

昨年（2023年）、障害当事者である市川沙央さんの芥川賞受賞により、「読書バリアフリー」や「アクセシビリティ」について注目が集まりました。市川さんの「本を読みたいということは、思いやりで与えられるようなことではない。あらゆる人のニーズに対応する選択肢を用意していくことが大事」という言葉が印象に残っています。

障害のある子どもたちの「本を読みたい」という気持ちに応える一つの選択肢として、また、ニューノーマルにおける急速なICT化、多様な教育・支援に合わせて、「わいわい文庫」の充実化を図り、支援の輪を広げていくことが、私共の大きな役割であると考えています。

2024年度、当財団は設立から50周年を迎えます。「すべての子どもたちに読書の喜びを」をテーマに、他団体との協働もすすめながら、更なる読書環境の向上に努めてまいります。

2024年3月

公益財団法人伊藤忠記念財団